

発熱について

【発熱がおこる主な理由】

- A 環境の異常な高温で体の熱の放出が追いつかないで体内に熱がたまり発熱する。
体を冷やせば体温は下がります。例えば、夏季熱、熱中症、着せ過ぎ、掛け過ぎ、過暖房など
- B 病原体の感染で免疫反応の一つとして発熱物質が作られます。感染にともなう発熱は病原体に対する体の防衛反応です。

【平熱と発熱の考え方】

- ①皮膚温は体温より低い。わきの下で体温をはかるには、体温まで温まる時間が必要。
- ②個人差が大きく、健康でも37℃を超えている子どもは少なくない。
- ③同じ条件で検温を繰り返し、個人の平熱を把握する。
- ④平熱よりおおむね1℃以上高い場合を発熱と考える。
- ⑤健康状態は、機嫌・顔色・食欲・呼吸などをあわせて観察し、総合的に判断する。

【発熱の緊急度の判断】

高熱でも緊急性がないケース、微熱でも緊急を要するケースがある。熱以外の「生命の危機」につながる可能性のある病気を疑い、症状を見極める。

A 中枢神経系の感染症（脳炎、髄膜炎）などではないか？

- ①意識レベルが下がっている・・なんとなく元気がない、ぐったりした感じ。もうろうとして反応が鈍い。呼びかけなどに反応するが、すぐにトロトロ、寝てばかりいる。
- ②激しい頭痛やはき気・・機嫌が悪い、泣く、ぐずる。不自然におう吐を繰り返す。
- ③幻覚？・・うわごと、奇妙な言動
- ④項部硬直・・首を持ち上げると、首が曲がらず上体まで上がってしまう。
- ⑤けいれん・・繰り返したり、数分でおさまらない場合
- ⑥大泉門の膨隆（乳児）

B 強い脱水の恐れはないか？

- ①意識レベルが下がっている。（上述）
- ②水が飲めない。
- ③高温多湿の環境に長時間いた後、ぐったりしている。（涼しくして水分をとらせても良くならない時）

C 気管支炎、肺炎の恐れはないか？

- ①呼吸困難・・呼吸が荒く、苦しそう。手足などの末梢が冷たい、顔色が青白い。
- ②瑞鳴・・胸に耳をつけるとゼーゼー

D 虫垂炎など外科的な病気ではないか？

- ①持続する腹痛・・はじめは激痛ではない。右下でもない。スタスタとは歩けない。足をまげて寝ている、伸ばさない。（年少の子ども）
※下痢にともなう腹痛は、緊急度は高くないケースが多いが脱水、食中毒などを考慮する。
- ②はき気、食欲不振・・食べたがらない

- ★ 熱が高くても、これらの症状がなければあわてなくて良い。
- ★ 熱が比較的低くても、これらの症状があるときは、緊急度が高い。
- ★ 微熱でも、続くときは要注意。必ず受診する。
- ★ 生後3カ月までの赤ちゃんの発熱は、熱以外の症状がなくても早めに受診する。

